

死亡率の地域差の要因分析と将来推計

井川孝之⁺

概要

本格的な高齢社会が到来しつつある昨今、様々なリスク要因や負担の公平性に配慮した年金制度の構築や保険商品の開発が一層重要となって来ている。死亡・寿命リスクについても、リスク要因の種類や大きさについて適切に把握し、将来推計や不確実性の評価に反映できるモデルや方法を開発する必要性が増して来ている。本稿では、都道府県別死亡率に基づく平均余命や健康寿命と国勢調査等の各種公的調査データを用い、死亡率の地域差の要因分析を行う。要因分析結果に基づき、地域差を生じさせるメカニズムについて考察する。また、都道府県別死亡率に適合する異質性を考慮した拡張 Lee-Carter モデルを策定し、将来死亡率について、地域差を考慮した場合としない場合を比較する。これらの分析や考察、比較を踏まえ、死亡率推計や不確実性評価における地域差の考慮について議論する。

キーワード

死亡率、異質性、都道府県別生命表、平均余命、健康寿命

⁺ PwC あらた監査法人